

ボールの特性レポート BALL REPORT



ボール名 ラプター・フュリー	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.480	△RG 0.055	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：ラプター・フュリー

フレアーの幅
[] インチ

PAPからピンとの距離
4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：ジャッカル・アンブッシュ

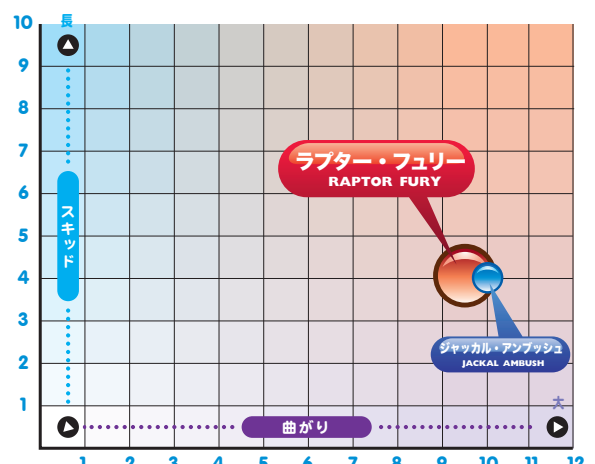
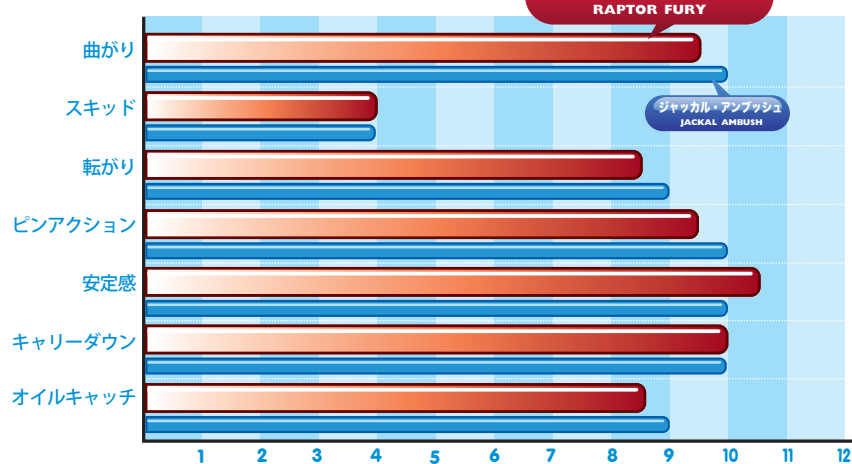
フレアーの幅
[] インチ

PAPからピンとの距離
4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

RAPTORシリーズはMOTIV社においてヘビーオイル対応のオプションとして存在し、カバーストックからコアテクノロジーに至るまでその領域を担っているJACKALシリーズと二分化されています。特にMOTIV社はこの領域にAsymmetry(非対称)とSymmetry(対称)双方のコアテクノロジーを取り入れ、各々カバーストックとコアテクノロジーの特色を活かしてパフォーマンスを分類しています。今回のRAPTOR FURYはLeverage XFS Solid ReactiveとAffliction V2コアの組み合わせで、コントロール性と高濃度のオイルに対応できる性能を目的として仕上げられています。搭載されたLeverage XFS Solid ReactiveはJACKAL AMBUSHと同系統のカバーストックで、今のラインナップでは最大のキャッチを誇ります。そのカバーストックに”XFS”(Extreme Friction Solid)というMOTIV社の独自添加剤を加え、JACKAL AMBUSHのカバーストックよりも若干直進力を加えることでエネルギーの保持力をアップさせて、コントロール性と扱いやすさを前面にだしています。対称コアならではの持続的な転がりやキャッチ系のカバーストックと連動して、曲がり始めてからピンヒットまでの軌道が非常に読みやすく感じました。私が投球してみると、レーン中盤で急激にブレーキがかかり曲がり始めようとする印象がありました。やはりヘビーオイル対応のスペックであるがごとく、手前から曲がるようとするイメージがあります。JACKAL AMBUSHと曲がるイメージも違いますが、ポケットへの軌道の読みやすさはRAPTOR FURYに軍配があり、角度が付きやすいのはJACKAL AMBUSHです。オイルが多いコンディションでミッドエリアのキャッチ感を求めている方にとってイメージが出やすい仕上がりです。

特記事項

ヘビーオイル対応のスペックで非対称のボールが多い中、数少ない対称コアのボール。扱いやすさと強力なキャッチ力が売りの性能です。